徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

令和7年1月
41号

〒770-0812 徳島市北常三島町２丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

新年のご挨拶 令和７年～逆境での結束と成長

病院事業管理者
三宅　秀則

新年 明けましておめでとうございます。皆さん、良い新年を迎えられたことと思います。三が日はお天気も良く、元旦に行われた「初日の出を見る会」では、11階からとてもきれいな日の出を拝むことができ、参加された患者さんに非常に好評であったと聞いております。

私は昨年4月に病院事業管理者を拝命し、あっという間の9ヶ月間でした。昨年6月1日には診療報酬改定が施行され、本体部分は＋0.88%のプラス改定となっておりますが、物価、光熱費高騰、人件費の引き上げ等を考慮しますと実質はマイナス改定に近く、さらにコロナの補助金が4月からはゼロとなり、病院を取り巻く環境は一層厳しくなりました。

しかし、厳しい医療環境という荒海を航海する市民病院丸の強みは、船長である中野院長のリーダーシップの下、病院の方針にそって医療職と事務職の全職員がワンチームとして荒波を越えていくように努力してくれることです。DPC機能評価係数上昇に向けても非常に協力的ですし、年末年始の9連休中には病床稼働率の低下が危惧されましたが、院長の指揮で例年に比べ高い稼働率で推移することができました。また、4月からの初期臨床研修医は定員7名がフルマッチしております。医学生に研修病院として選んでもらえることは、患者さんから選ばれる病院であること同様、非常に大切です。

今後も激変する医療環境を見据え、市民病院としてのアイデンティティーを失わず、多様性を受け入れて環境変化にしっかりとついていき、地域住民の皆さんに「ここに在って欲しい、ないと困る」と思われる病院を目指して頑張ってまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

市民病院長
中野　俊次

明けましておめでとうございます。昨年は能登の震災ではじまり、波乱の年明けでしたが、今年の元旦は11階病棟から初日の出を見て、穏やかな新年を迎えることができました。連携医の先生方をはじめ、多くの方々には日頃より大変お世話になっております。

3年以上続いたコロナ禍の後、通常業務に戻った令和6年度からコロナ補助金がなくなりました。そのため当院では、急性期病床稼働率90%以上、救急車の受け入れを月300台以上と具体的な目標を掲げ、スタッフの奮起を促しました。お陰様で良い方向に向かっており、連携医の先生方からの評価もいただき、当院の存在価値は確実に上がっていると思います。

当院の評価が高くなるとともに忙しい部門・部署が増えていますが、利他の心、恕(じょ)の心をもって共に協力すれば、働きやすい環境になると思います。昨年から始まった働き方改革に加えて、全国的な人口減少に伴った人手不足によって、当院でも今後人員は容易には増えないことを鑑みると、さらなるタスクシフトやタスクシェア、業務の効率化や勤務体制の改変と医療DX導入を積極的に進めていく必要があると考えます。

これからもスタッフ一同、徳島市民病院が公的医療機関であり、地域医療、救急医療を支えていく中核病院であることを自覚し、連携医の先生方とともに協力して徳島の医療を支えていく所存です。引き続き、多くのスタッフがプライドをもって働きやすいと共感でき、誰からも信頼される病院を目指してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

市民公開講座 開催

11月23日、ふれあい健康館において市民公開講座を開催しました。今回は『健康寿命を延ばそう－年齢とともに増える疾患を知ろう－』をメインテーマとし、腫瘍精神科・多田（ただ） 幸雄（ゆきお）主任医長から『認知症を知ろう』、整形外科・高井（たかい） 通宏（みちひろ）主任医長から『大腿骨頚部骨折・転子部骨折とその治療』、私から『たかが便秘、されど便秘』という題目で講演を行いました。

当日は、今年度もっとも多い90名の方がご参加くださり、たくさんの質問をしていただきました。講座終了後には聴講者の方より、「良かった」「ためになった」「次回もお願いします」などの声をいただき、大変嬉しく思いました。ふれあい健康館 館長さんからも感謝のお言葉をいただき、開催に尽力くださった関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

今後も徳島県民の健康意識を高め、当院の医療の実際を広く知っていただくための市民公開講座を開催していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

（副院長　岸 史子）

右より司会・講師の岸 副院長、
講師の多田 主任医長、高井 主任医長

多くの聴講者が会場に訪れた

講師を招き医療安全研修開催

12月11日、当院顧問の田中法律事務所より坂田（さかた） 知範（ともの）弁護士を講師にお迎えし、「診療録の重要性」「説明と同意」についてご講演いただきました。

診療録は過去の判例においても証拠価値が非常に高く、看護記録についても同等の価値があるため、遅滞なく正確に記録することが重要であると語られました。また、説明と同意には現代的意義の一つとして紛争予防機能があります。事前に十分な説明をし同意を得て、事後にも丁寧な説明を行うことで、医療者と患者家族間にある認識のずれを解消していくことも重要と述べられました。

12月11日に行われた坂田 知範氏の講演

年が改まり1月15日、SOMPOリスクマネジメント株式会社 泉（いずみ） 泰子（やすこ）氏を講師にお迎えし、「患者家族とのコミュニケーション」についてご講演いただきました。SNSやメールが多用され、直接相手と言葉を交わす機会が減少した現代社会では、業務中のコミュニケーションに様々な問題が生じています。また、超高齢化と急速な発展を遂げ複雑化した医療を担うスタッフは、患者とゆっくり向き合う時間を捻出するのが困難になっています。

このような中で安全安心な医療を推進していくには、「医療者が患者や家族の状況を声にして聴き取る」ことを徹底するだけではなく、「患者や家族の側から不安や痛みを訴えてもらう」ための環境や仕組みを作ることが肝要であると強調されました。

1月15日に講師として登壇した泉 泰子氏

（医療安全対策室　中野 朋美）

救急患者受入連携会議

12月4日、市民病院の研修ホールにおいて徳島市消防局との救急患者受入連携会議を開催しました。会議冒頭では、宮本 理司（みやもと ただし） 救急室総括部長より当院の救急車受入実績や現状の課題等に関する説明が行われました。

続いて、佐藤 亮祐（さとう りょうすけ） 整形外科主任医長に「重度四肢外傷～切断肢指に対する処置対応～治療まで」と題し、丁寧で分かりやすい症例発表を行っていただき、消防局の救急救命士が真剣な眼差しで講演に聞き入っているのが印象的でした。

症例について解説する佐藤 主任医長

その後の意見交換会では、救急救命士から「以前より救急車を受けてくれる」とのお褒めの言葉をいただいた一方、「正確な情報を医師へ迅速に説明したいので、救急救命士のメモ書き（患者情報を聞き取りしたメモ）は、早急に返還してもらいたい」、「家族が同席している場合は家族を優先に患者情報の聞き取りを実施してもらいたい」など、貴重な改善要望も伝えていただきました。

救急救命士より意見や要望を伺う

今後とも、消防局との「顔の見える関係」を継続し、互いに協力しながら地域救急医療に尽力していきたいと考えています。

（医事経営課　梯 智也）

徳島県薬事協議会より薬事功労感謝状を授与

薬剤部の萬玉（まんぎょく） 隆男（たかお）と申します。令和6年10月24日に、徳島県薬事協議会より薬事功労感謝状をいただきました。思いもよらぬことに驚くとともに、とてもうれしく思っています。

災害時の医療救護班、徳島県災害時薬務コーディネーター、徳島大学薬学部の非常勤講師、徳島県病院薬剤師会の理事等の病院外における活動についてご評価いただきました。同時に、今後の活躍への激励の意味も込められていますので、身の引き締まる思いです。諸先生方が紡いでこられた徳島市民病院の良き伝統の礎があっての贈呈であると、自分がこの病院の職員であることに誇りを持っています。

現在は、病棟担当薬剤師として、10階病棟を担当しています。病棟では入院時の持参薬確認、病棟薬剤業務、退院時の服薬指導等を行っています。

引き続き薬剤師として職責を果たしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻いただけますようお願いいたします。

萬玉 隆男 担当次長

（薬剤部　萬玉 隆男）

市民病院の行事食

12月のクリスマスメニュー

病気と闘っていくための体を養うには、バランスの取れた食事が非常に重要です。当院では、患者さんの病状に合わせて日々の食事をご提供しています。

入院中にも季節の移ろいや楽しみを感じられるよう、行事食もご用意しています。12月にはクリスマス、1月にはお正月メニューが登場しました。　（栄養管理室）

新任医師ご紹介

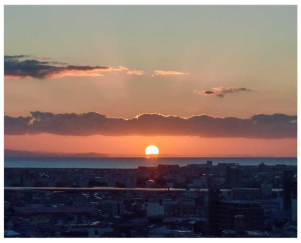
整形外科 主任医長
武市 憲英

令和7年1月から着任しました、整形外科の武市（たけいち） 憲英（のりひで）と申します。徳島出身ですが大学から沖縄に移住していました。

昨年より徳島に帰ってきて当院で働かせていただくことになりました。沖縄のなまりが出ることもあると思いますが、宜しくお願い申し上げます。

初日の出 鑑賞会

1月1日午前7時7分、11階病棟にて「初日の出鑑賞会」を行いました。患者さんや院長をはじめとする職員、約30名が雲の隙間を見つめるなか、無事太陽が姿を現すと歓声が上がりました。



初日の出を静かに見つめる方、記念に写真を撮る方、新年の挨拶を交わす方など和やかな新年の門出となりました。　(総務管理課)

リレー企画 研修医日記

初期臨床研修医1年目の杉本（すぎもと） 花奈乃（はなの）と申します。徳島市民病院で2年間、お世話になります。

私は大阪府出身で、私立四天王寺中学校・高等学校を卒業後、徳島大学入学時に徳島県に参りました。土地勘もなく、実家から3時間半ほどかかる場所での初めての一人暮らしは不安と緊張でいっぱいでしたが、徳島の美味しいもの、美しい景色、人々の優しさに触れ、心配事はすぐに飛んでいってしまいました。就職にあたって地元に戻るかどうか悩みましたが、徳島市民病院の温かい雰囲気、尊敬する先生方のもとで学びたいという思いから、引き続き徳島県でお世話になることにいたしました。

大学時代は、常三島キャンパスのモダンダンス部に所属し、6年間パンキングというジャンルを踊っていました。徳島大学モダンダンス部には、ロック、ハウス、ヒップホップ、ジャズ、パンキング、ブレイク、ポップと7ジャンルあり、どれか一つメインジャンルを選びます。ジャンル毎に動きに特徴があり一見全然違うのですが、基礎の動きは共通しています。基礎をしっかり押さえている人ほど動きが正確で美しかったり、他ジャンルの要素も取り入れた面白い動きを作り出せたりするのを見て、基礎練習の大切さを痛感しました。

初期研修終了後、どの診療科を専門とするにしても、初期研修2年間で築く基礎は今後の自分の医師としての在り方に関わる、とても大切なものです。毎日を丁寧に過ごし、2年後に基礎固めができているよう精進いたしますので、ご指導・ご協力よろしくお願い申し上げます。

（初期臨床研修医 杉本 花奈乃）

初期臨床研修医１年目の加藤（かとう） 佑実（ゆみ）と申します。

私も研修医同期の杉本さんと同じ大阪出身で、私立四天王寺中学校・高等学校を卒業した後、別の大学を経て徳島大学の医学部に入学しました。入学してすぐは大阪が恋しくて毎週末に帰郷する日々でしたが、気がつけば人と人との距離が近く、自然あふれる地である徳島の虜になってしまい、就職後もこちらに残ることといたしました。山や河川敷で自然を感じながらご飯を食べてのんびりするのは至福の時間です。

私がこの病院を志望した理由の一つは、働いておられる皆さんの雰囲気がとても良かったことです。入職して9ヶ月になりますが、このことは改めて間違っていなかったと日々感じております。皆さんいつも明るく挨拶をしてくださり、とても居心地のいい雰囲気で毎日出勤するのが楽しみになっています。職員の方々は未熟者の私たちにも優しく丁寧にご指導くださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

研修医室では2年目の研修医の先生方とお話しする機会も多いのですが、初歩的な質問にも丁寧に答えていただき、カルテの書き方や研修医の間に役立つ参考書など、どんなことでも真摯に教えてくださる研修医生活での心強い味方です。一年後には自分も少しは成長できているのだろうかと不安に思うこともありますが、一日一日を大切に頑張っていきたいと思います。

至らない点も多く、ご迷惑をお掛けすることもありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

（初期臨床研修医　加藤 佑実）

編集：徳島市民病院 広報管理室　〒770-0812 徳島県徳島市北常三島町2丁目34番地　TEL：（088）622-5121